

東京・伊興遺跡

- 1 所在地 東京都足立区東伊興一丁目・狭間周辺
- 2 調査期間 一九八九年(平一) 四月～一九九四年三月
- 3 発掘機関 伊興遺跡調査会
- 4 調査担当者 佐々木彰
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 四世紀～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(東京東北部)

伊興遺跡は埼玉県草加市に境を接する東京都北部の足立区にある。地勢的には東京低地北辺部の臨海沖積平野の一画、県境を流れる毛

長川右岸の微高地上に位置している。微高地は毛長川に平行して走る南北二つの自然堤防からなり、木簡はいずれもこの自然堤防下の低地帯の二地点より出土した。ともに現地表面から深さ約二mに堆積する泥炭層からの確認である。

木簡(1)の出土した泥炭層の下層には青灰色砂層が広がり、さらにその下層にも荒い砂層が堆積しており、涌水も認められている。木簡に伴うと思われる土器片は青灰色砂層中から出土している。土器類は木製品に比べ重量があるため、砂層まで沈み込んだらしい。遺物が堆積した当時、辺りは沼沢地であり、自然科学分析でもこのような沼沢地が遺跡周辺に、数多く分布していたことがいわれている。

この地点では木簡以外にも、さまざまな木製品が出土している。馬形・剣形?・火鑽臼・杓子状木製品・曲物底板などがその主なものであるが、いずれも木簡と同様、泥炭層中からの出土である。木製品類は東から西にわずかな傾斜をもって堆積していたことから、南北いずれかの微高地から流れ込んだか、捨てられたものらしい。

それ以外にも、この地点には土師器・須恵器・白玉・管玉・紡錘車など、古墳時代の遺物も多く出土している。多くの木製品の所属時期も当初は古墳時代を想定したが、その中に混じり、八世紀末から九世紀前葉の内黒土師器杯や須恵器片も出土しており、木簡の年代もこの頃であることが推定された。なおこの地点では、他にも二点の木簡が出土しているが、墨痕がわずかに認められたにすぎず、内容その他については不明である。

ところで、伊興遺跡では木簡(1)の出土地点以外にも、奈良・平安時代の遺物が集中的に出土する地点を数カ所確認しているが、そのうちの一点から(2)が出土した。同地点からは墨書土器・斎串・子

持勾玉なども出土し、祭祀場の可能性も指摘されている。とりわけ特筆されるのは墨書土器であり、文字の明らかなもので三〇点あまり出土している。そのうち代表的な二点を図示している。

8 木簡の釈文・内容

(1) □□□□

・ □□々々如律令腹痛 □ (250)×(38)×11 061

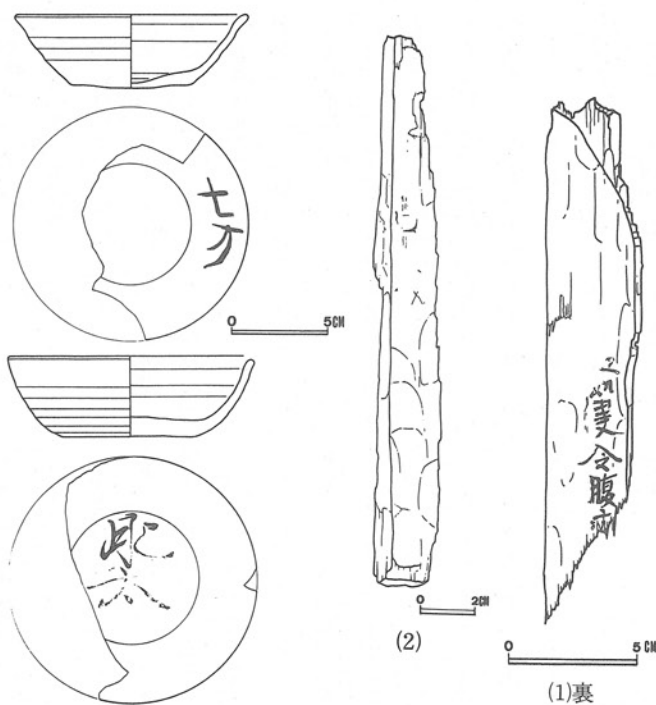
(2) □□申状□□ (308)×(32)×(8) 081

(1)は地図の1地点で出土した木簡である。下部分を欠き、右側にもわずかに欠損箇所が認められる。上に弧状の溝があり、このことから曲物蓋の一部であることが判明した。墨書は「(急)々々如律令腹痛」と判読され、呪符木簡の一種である。しかし材の遺存状態が悪く、発見当時と異なり、現在は墨痕がわずかに認められるにすぎない。

木簡は、本来曲物の蓋板に呪句を記し、腹の病氣平癒を祈願したものであり、曲物の中に腹の病氣を治療する薬草など、薬物を入れた可能性もある。

(2)は地図の2地点で出土した。木簡中央辺に残る墨痕は「申状」と判読されたが、あまり明瞭ではない。前後の文も不明である。

古墳時代中期を中心に隆盛を迎え、祭祀遺跡として著名な伊興遺



上段：須恵器 下段：土師器
(両者とも外面に墨書)

跡も、それ以後の様相は不明だった。しかし最近の調査によって、奈良・平安時代に集落が営まれていたことが確実になり、しかも祭祀遺跡として命脈を保っていたらしいことも明らかになった。木簡・墨書土器などとともに、遺跡内より帯金具も出土していること

から、周辺の中心的な集落として機能していた可能性が大きく、官衙的な施設の存在も強く考えられるようになった。

木簡の釈読については、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

9 関係文献

趙力華・三ヶ島誠次男「〈急々如律令腹痛〉木簡について」〔足立区郷土博物館紀要〕第一七号 一九九四年

(佐々木彰)

東京・錦糸町駅北口遺跡

きんしちようえききたぐち

- 1 所在地 東京都墨田区錦糸一丁目
- 2 調査期間 一九九三年(平5) 四月～六月
- 3 発掘機関 錦糸町駅北口遺跡調査団
- 4 調査担当者 谷川章雄・玉木博史
- 5 遺跡の種類 武家屋敷跡
- 6 遺跡の年代 一八世紀後半～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

錦糸町駅北口遺跡は、墨田区の東部、JR総武線錦糸町駅の北西約三〇〇mの地点に位置している。本遺跡は、武蔵野台地と下総台

地の間に広がる東京低地上にあり、調査地の標高は九〇cmを測る。

錦糸町駅北口遺跡の調査は、錦糸町駅北口市街地再開発に伴う緊急発掘調査として行なわれ、一九九三年二月に試掘調査を実施し、同年四月から錦糸町駅北口



(東京東北部)